

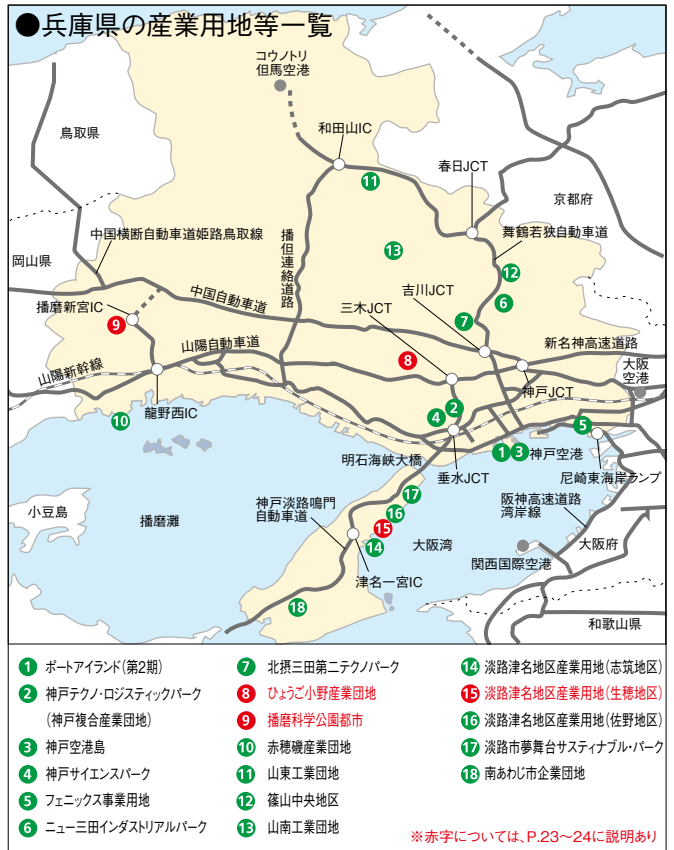
産業立地の促進と新産業用地の整備 兵庫県

優れた立地特性

北は日本海に面し、南は瀬戸内海から淡路島を介して太平洋へと続く広い県域を持つ兵庫県。風土や気候、文化、産業が多様なことから「日本の縮図」と称される。県南部の瀬戸内臨海部は、鉄鋼、機械・金属製品、化学製品などの産業が集積する全国有数の工業地域。一方、県中部、北部は、ブランド産品で知られる農林水産業が盛んな地域だが、近年は企業立地も進んでいる。優れた立地特性が兵庫県の強みで、広大な県土に、陸・海・空の充実した交通ネットワークを持ち、近畿と中国、四国、九州を結ぶ「西日本の交通結節点」となっている。企業立地も堅調で、経済産業省の工場立地動向調査によれば、工場立地件数は2002年以降、毎年全国上位を維持している。

■兵庫県のデータ

面積：8,401 km²
 人口：5,500,580人（2018年1月1日現在・推計人口）
 県庁所在地：〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号
 TEL：078-341-7711（代）
 ホームページURL：http://web.pref.hyogo.lg.jp/



世界を視野に入れたモノづくり拠点に最適 —「播磨科学公園都市」—

「播磨科学公園都市」は県南西部のたつの市など3市町にまたがる自然豊かな丘陵地にある。世界最高性能の大型放射光施設SPring-8、X線自由電子レーザー施設SACLA（さくら）、兵庫県立大学などの先端科学研究機能を備えており、モノづくりのための支援体制が充実している。



播磨科学公園都市



大規模区画にも対応可能

—「淡路津名地区産業用地」—

本州と四国を結ぶ交通の要衝、淡路島東海岸の中央部に位置する「淡路津名地区産業用地（生穂地区）」は、最大15.6haもの広大な区画が確保可能で、大規模区画を中心に整備されている。地区内には、耐震強化岸壁を備え、市の防災拠点も立地する、充実のインフラが魅力だ。



交通至便な新産業団地 —「ひょうご小野産業団地」—

県企業庁は、企業立地の促進や雇用の創出など地域創生に取り組むため、県内の産業用地の状況も踏まえ、小野市と共同で新たな産業団地「ひょうご小野産業団地」を整備する。開発面積は約40haで、小野市が道路、上下水道、公園などの関連インフラ整備を行い、県企業庁

が産業団地の造成及び分譲を行う共同事業方式での整備。造成期間は、2016年度から2021年度まで（予定）で、2019年度の一部分譲開始（予定）を目指している。山陽自動車道の三木小野ICから車で約5分と至近なうえ、国道175号にも近接しており、アクセス良好な好立地だ。



県内全域で産業立地促進

県は、2015年度に条例改正し、法人事業税等の軽減、設備投資及び雇用に対する補助金の対象区域を県内全域に拡大した。また、本社機能の県外からの移転や県内新增設に対する法人事業税軽減、設備投資補助制度も新設。

さらに、2017年度には本社機能の移転又は新增設に対する支援について、一部雇用要件を緩和したほか、移転

要件の区域を拡大した。

区分	工場	研究開発施設	本社機能
税軽減	不動産取得税	1/2軽減	
	法人事業税	1/2~1/4軽減・5年間	1/2~1/3軽減・5年間
補助金	設備投資補助	設備投資額の3~5%	設備投資額の5~7%
	雇用補助	新規正規雇用者30万~60万円/人	
	賃料補助	賃借料の1/2	

陸路・海路・空路が集結・連携する国際都市 —神戸市—

古くから交通の要衝であり、国際港湾都市として発展してきた神戸。モダンな雰囲気や生活の便利さから、「住みやすい都市」として世界的に評価される国際の人気都市だ。陸路・海路・空路すべての交通機関が集結・連携し、あらゆる事業ニーズに応えられる広域交通網を備える。さらに、阪神淡路大震災の経験を生かし、災害に強いまちづくりを確実にかつ先進的に行っている。懸念される南海トラフ最大級の地震が起きたとして、神戸で想定される津波水面高は最大4m（内閣府調査）。それに対して臨海部の「ポートアイランド（第2期）」の地盤高は4.5～6m、護岸高は9mと高く、津波への備えは強い。



研究機関、医療産業が集積するビジネス拠点 —「ポートアイランド（第2期）」—

「ポートアイランド（第2期）」は、市街地に近く、空・海・陸の交通アクセスに優れたビジネス拠点だ。市が推進する「神戸医療産業都市」の中核地で医療分野の企業が集積するほか、創薬の新拠点やiPS細胞を用いた網膜再生治療を行う「神戸アイセンター病院」や「神戸陽子線センター」「神戸医療イノベーションセンター」の整備など、更なる集積と産業の高度化が図られている。優秀な人材の確保も含め、研究開発に適した立地環境が魅力的だ。



物流・製造に最適な用地 —「神戸テクノ・ロジスティックパーク」—

「神戸テクノ・ロジスティックパーク」（神戸市西区）は、計画面積270haの大規模な産業団地で、物流施設用地と製造工場用地の2用途がある。団地内に山陽自動車道・神戸淡路鳴門自動車道の神戸西ICがあり、全国に広がる広域幹線網に直結するほか、三宮から28分とアクセスに優れている。周辺に住宅団地が多く、人材も確保しやすい。また、造成地の9割が「切土」で地盤が強固なため、災害に強く、くい打ちなど基礎工事の手間が省けることで、建設コストを低減できるなど非常に魅力的な用地だ。



充実の企業進出サポート体制

企業誘致に取り組む「神戸エンタープライズプロモーションビューロー」は、用地の相談から、優遇制度の案内、契約、さらに進出後のビジネスマッチングまで幅広くワンストップサービスを展開。インセンティブ面も充実しており、税優遇や補助金など、多彩なメニューを用意し、企業進出を全力でサポートする体制が整っている。

- 固定資産税・都市計画税を最大10年間90%軽減
 - 先端製造業大規模投資促進補助—設備投資額の最大6%
 - 企業拠点移転への補助
 - 都心地域オフィス等立地促進補助—賃料補助
- ※各制度の詳細は神戸エンタープライズプロモーションビューロー（P.30掲載）まで、お問い合わせください。